

令和5年度第1回高知市行政改革推進委員会 会議録

附属機関名：高知市行政改革推進委員会

日時：令和5年10月30日（月） 午後2時～午後4時

場所：本庁舎6階大会議室

1 議題

- (1) 令和5年度事務事業評価（一次評価結果）について
- (2) 令和5年度指定管理者業務評価結果について（報告）

2 審議概要

令和5年度事務事業評価（一次評価結果）の概要について説明し、質疑応答及び御意見等をいただいた。

令和5年度指定管理者業務評価結果を報告し、報告内容について、質疑応答を行った。

3 出席者

- (1) 委員（五十音順・敬称略）

池澤 研吉，市川 哲司，内川 由加，勝木田 泰子，酒井 浩一，武林 由希子，田中 靖子，文野 幸，宮上 佳恵，行貞 伸二，吉用 武史

- (2) 高知市事務局

中澤副市長，総務部長，総務部副部長，防災対策部長，財務部長，市民協働部長，健康福祉部長，健康推進担当理事，こども未来部長，環境部長，商工観光部長，農林水産部長，都市建設部副部長，会計管理者，上下水道事業管理者，消防局長，教育次長，行政改革推進課

4 審議内容（主な意見）

- (1) 令和5年度事務事業評価（一次評価結果）について

■ 委員

69 ページ「浦戸湾・七河川一斉清掃」について、3年間事業を実施していないということだが、事業再開に向けて現在の実施体制はどうなっているか。

■ 事務局

事業の実施体制は従前と変わりなく、関係団体及び庁内でも関係の部署などと調整しつつ、事業実施について進めていく。

また、事業再開に当たっては、令和元年度の事業開催時に発生した児童の水難事故等を踏まえ、参加者の安全確保の方法について検討しており、一例として開催時期は、従来の開催月である7月ではなく、比較的降雨量が少なく、気候も穏やかな3月を予定している。

■ 委員

3年間事業を実施していないため、相当の量のごみが溜まっていることを懸念しているが、その点をよく検討いただきたい。

■ 事務局

指摘を踏まえ、今後検討していく。なお、不燃ごみ及び可燃ごみについては、事業を開始した平成初期と比較すると、大幅に減少している状況である。

■ 委員

301 ページ「新図書館西敷地利活用事業」について、非常に難しい事業であると考えますが、評価の中で、302 ページ6 所属長評価の「事業内容の有効性」の説明で、選定過程で多くの知見が得られたとあるが、この知見とは具体的に何を指すか。

■ 事務局

質問いただいた知見とは、本事業に対して様々な業種へのヒアリング、或いはサウンディング等を実施し得た事業者からの意見及びアンケート等を積み重ねて得た市民からの意見を指す。

本事業については、令和4年度に基本方針及び事業実施計画を廃止し、新たな基本方針を作成することとなったが、新たな基本方針作成に当たっては前述の知見を活用するとともに、また新たにアンケート等も実施し、来年の秋に向けて、考え方を取りまとめていく。

■ 委員

417 ページ「ふれあいの水辺づくり事業」について、現状本事業の実現が不透明であるように感じた。本年度の予算要求において、当該事業の予算要求はされているか。

■ 事務局

現状、近年の全国的にみられるゲリラ豪雨による浸水対策を行うため、河川の浚渫及び整備事業を優先して進めており、本年度の予算要求においては、本事業に係る予算要求に至っていない状況である。

ただし、地域の声としては、本事業による親水公園の整備を要望しており、規模縮小等を視野に入れつつ、事業を進めたいと考えている。

■ 委員

305 ページ「よさこい祭り補助金」について、現状、資金や人手不足により演舞場を各商店街が継続して運営することが、困難になっている。

資金の不足に関しては、県や市や関係団体の補助金助成金等で対応できる余地があると考えますが、人手不足について解決に向けた考え方があるか。

■ 事務局

よさこい祭りの競演場の運営については、商店街を母体とする各競演場、演舞場が発達し独自に運営してきたところ、従前より資金面、人員面で商店街だけで競演場を運営することが困難な状況が継続している。

これに対し、資金面では、高知市からよさこい祭り振興会へ補助金を交付し、よさこい祭り振興会から各競演場へそれぞれ支援をしている。

また、競演場の運営について、モデルケースの抽出のため、過去に視察をした際に、競演場ごとに人の集め方、或いは資金の集め方が大きく異なり、市が一律の支援をすることは難しいことが分かった。

その中で、今年度新たによさこい祭り振興会の中で、LINEを使った情報発信の仕組みができ、それをういてボランティアの募集等を実施した。

まだまだ発展途上だが、今後人員面の問題に対しては、よさこい祭りにボランティアで参加したい方々をデジタルツールで広げ、最終的にはこれを一本化し、各競演場に指定の人数を配置するといった方法を考えている。

■ 委員

競演場の人手不足の解消に寄与すると想定していた事業は、移住事業の1つであるよさこい移住者というもの。よさこい移住者がよさこい祭りの運営に参加することで、よさこい祭りの持続性を保っていく考え方もあると考える。

現在、県内に在住しているよさこい移住者の人数を把握しているか。

■ 事務局

現在のよさこい移住をした方の人数に係るデータが手元にないため、追って回答する。

⇒後日回答事項①参照

■ 委員

関連して、総合計画の中での移住の取組の位置付けについて、資料124ページの施策の大綱をみると、移住に関する事業が「地域おこし協力隊推進事業」の1事業しか結果報告として上がっていないが、そこはどのように評価しているか。

大きくは移住という目標があり、その中で、移住者が例えばよさこいの継続に関しても、関わることができれば、よさこい祭りの人員の不足に関しても問題解決をある程度見込める。そういった事業設計であれば、工夫が伝わると考える。

■ 事務局

移住に係る事業の総合計画における移住の位置付けについて、実施計画の事務事業評価は令和3年度から令和5年度までの3年に分けて評価しており、資料1については、実施計画に登載されている541の事業の内、令和5年度に評価した234事業のみを掲載している。

実施計画における移住の位置付けとしては、資料1の24ページに自立の環の中の政策として「多様な交流や、新たな人の流れが生まれ、自立したまち」を示しており、その下に施策で52番の「新しい人の流れを生み出す移住・定住促進」、さらにこの政策の下に10数個の事業が搭載されている。

なお、指摘いただいた部分も今後力を入れつつ、必要に応じて見直しを行いながら、移住定住の促進を進めて参りたい。

■ 委員

引き続き「よさこい祭り補助金」について、今年度のよさこい祭りについては、アルバイ

トの求人を出してもなかなか人手が集まらなかった。一方、大学受験等の関連と思われるが、高校生からボランティアの申し出が一定数あった。

こういった需要があるのであれば、学校等と連携して高校生ボランティアを募集できればと考える。

■ 事務局

よさこい祭りのボランティアを希望する方は高校生に限らず、県内外を含め一定数いる。よさこい祭りのLINEで情報を幅広く周知し、ボランティア募集の窓口を一本化する形式を理想と考えており、学校との連携も含めて検討していく。

■ 委員

85 ページ「デマンド型乗合タクシー運行補助」について、評価がA評価となっているが、地域によって活用できるという声もある一方で、久重地域では、住宅からデマンドタクシーの発着場所までかなり距離があること、また金額面等の課題があり、利用をしていない者もいる。

デマンド型タクシーの利便性は認めるが、一方、利用をしていない側の意見も聞いていただきたい。

■ 事務局

デマンド型タクシーについては、従来から中山間地域の皆様から様々意見があり、市としても、実施可能な部分に対応してきた。

デマンド交通については、これまで路線型からエリア型に運用を変更したり、住宅地から乗換え先のバス停までを送迎することといった改善にも取り組んできたが、やはり降車場所や乗り換えの不便さについて、地域ごとに課題はある。今後は指摘を受けたように利用していない方の声も聞きつつ、地域の方の利便性が高まる交通体系の方を構築していきたい。

なお、デマンド型タクシーは3年に1回全体的な見直しを実施しており、地元の意見を聞きつつ、見直しを検討する。また、デマンド交通は一般のタクシーと異なり、公共交通の位置付けとなるため、当然できること、できないことはあるが、地元の方と意見交換をしつつ検討していく。

■ 委員

415 ページ「橋梁震災対策事業」について、橋の落橋を防ぐ耐震工事は完了したと受け取った。

次の段階として、震災後に橋げたと橋台がずれた場合に、即座に車両が通れるよう橋の復旧工事が可能となるような工事を進めるということだが、この工事を全数でやると、期間も費用も相当かかると考えるが、その工事の規模感を教えていただきたい。

■ 事務局

落橋対策については、今年度全ての主要な橋梁については終わる予定としている。

416 ページに記載のとおり、橋の機能を速やかに回復できる措置として、橋げたと橋台がずれた際に、即車両が通れるような対策をできるような工事をしていきたいと考えており、全ての橋梁に対し、当該工事を施すことは難しいため、高知県が指定する緊急輸送道路や、高知市が防災で使用しております緊急輸送道路について、対策を進めていきたいと考えている。

■ 委員

工事の対象となる橋梁の本数的には、どの程度であるか。

■ 事務局

現在の工事の対象としている橋梁の本数のデータが手元にないため、追って回答する。

⇒後日回答事項②参照

■ 委員

寄付について、高知市政のPRにつながるものとなるので積極的にやっていただきたいと考えているが、ふるさと納税、企業版のふるさと納税またクラウドファンディングに係る、寄付のデータについて教えていただきたい。

■ 事務局

高知市では、財政状況が厳しいため、財政の健全化プランを作りつつ、収支の改善を図ってきた。今年度からは3カ年の財政健全化プラン2023年版を今年の7月に策定をした。

この計画では、3カ年で94億円の収支改善が見込まれており、その取組の1つとして、ふるさと納税各種について、令和4年度決算実績で6億6000万円程度の収入であった。

またクラウドファンディングについても、取組を進めており、現在では、映画等の分野に対するクラウドファンディングなども実施している。

■ 委員

393 ページ「(仮称)私道整備補助事業」について、所属長の評価がD評価だが、部局長の評価がA評価の事業について、どのように理解したらいいか。

■ 事務局

所属長評価は、各評価項目で、評価し点数付けをした結果から導かれるものであるが、部局長評価では、事業内容を吟味し、部局長が必要だと考えているという評価となっている。

■ 委員

財政状況悪化のため新規事業が実施できなかったため、所属長評価が下がっているが、重要な事業であり、ぜひ実施すべきと考える一方で、今後実施できる見通しはあるのか。

■ 事務局

現在、橋梁等の耐震対策に係る事業を優先的に進めている状況である。ただし、指摘のとおり重要な事業であり、市としても実施したいと考えている。

■ 委員

31 ページ「スマート自治体の推進」について、今回の評価とズれるかもしれないがAIなどの活用をして、事業の効率化を図るとのことだが、ChatGPTについて高知市庁内での活用方針について、検討等しているか。

■ 事務局

ChatGPTについては、今後、さらなる活用が期待されており、本市においても、本市の事業に有効活用できるか庁内で検討を行っている最中である。検討内容については、庁内の管理職級職員に対し、ChatGPTの用途について、用途を限定せず各自で試行的に使用してもらい、活用方法についてアイデアを募集している状況。

最終的には相当量の事務の効率化を図ることを期待しており、今後の試行結果を見ながら、しっかりと検討していく。

■ 委員

297 ページ「れんけいこうち大型船舶等寄港誘致推進事業」について、市の人口減少が進み、産業もすぐには増えない中で、経済面で観光客は非常に貴重であると考え。

現状高知の観光客が増加しているが、それに対する受け入れ体制について、クレジットカードが使用できない店舗、場所が多いこと、地図も日本語表記のものしかないように感じており、高知市内の観光客の受入体制、特に外国人観光客への対応に対する体制について伺う。

■ 事務局

大型船舶の寄港の際には、市街地の表記や、英語表記のWEB上の案内を作成し、下船した外国人観光客に対して示している。しかし、全員が当該地図等を手に取れていない状況である。広報については、いただいた意見を踏まえ、検討していく。

なお、れんけいこうち大型船舶等寄港誘致推進事業については、主に港での物販や、見送り、また船が寄港する場所が新港であり、市街地まで若干距離が離れているため、新港からはシャトルバスをはりまや橋観光バスターミナル等へ向けて運行するといった事業を実施しており、そういった経費を県と市で按分している事業となっている。

来年も40隻程度の寄港を見込んでおり、高知への滞在中に可能な範囲で、市街地まで足を延ばしていただき、快適に高知の観光を広く楽しんでいただく。そういったメニューは用意している。一部、情報を受け取れていない方もいるため、その点についてはさらに充実をさせていきたいと考えている。

■ 委員

479, 480 ページの不登校対策総合支援事業について、コロナで不登校となり、コロナ後もその状態が継続している生徒が増えていると聞いたが、市として具体的にどのようなことをしているか。

■ 事務局

全国的な傾向と同じく、本市でも不登校傾向の生徒が増加している。

まず、不登校については、本事業にかかわらず、本市では、未然防止、早期発見、早期対応の三つの段階で不登校に取り組んでいる。

479 ページで示している事業は、Q-Uアンケートの予算に係るものであり、Q-Uアンケートとは、未然防止に係る部分で子供たちの状況、クラスの中での友人関係、学級での満足度等を計るものである。

続いて、早期発見について、小学生と中学生は、子供からの相談ということで学級担任との信頼関係を築くということで取組も進めており、また学校の取組を支援するため、教育委員会が各学校に入ることも進めている。

また、早期対応については、本年度から、教育委員会と学校だけの取組では十分ではないことから、弁護士、医療関係者、また市長部局等、様々な分野から不登校の原因や、学校が取り組むべき内容、また学校外が取り組むべき内容は何かについて、今年度から検討を進めており、来年度、教育長へその検討内容を提言としていただくこととなっている。

■ 委員

207 ページ「放課後児童クラブ施設整備事業」の主に箱物に係る部分で、建設の必要性がないということでも理解したが、改めてよく読むとこの事業の意図に、専用棟の建設“等”により、安全な環境を整備し、待機児童解消を目指すとともに、支援員への研修等を通して、児童等の健全な育成を図ることでより良いクラブを目指すとしており、この後段について、この事業を廃止したときに、その代替事業があるのか教えていただきたい。

■ 事務局

この施設整備については、児童数が減少に伴い、校舎に空き教室できることが想定されるため、当該空き教室でハード整備を補完することとしている。

質問のソフト事業については、現在も定期的に児童クラブ同士の情報交換や研修等を行っており、そちらはこの事業とまた別の事業で引き続き実施していく。

(2) 令和5年度指定管理者業務評価結果について（報告）

■ 委員

はりまや橋観光バスターミナルについて、利用台数の増が想定されており、当然利用人数も増える。その中で、特に外国人の利用の増加については、サービスの向上を考える一方でトラブルの発生も想定すべきで、特に外国の方は言葉での注意喚起が難しい場合があるため、特に安全面の確保について、標識など国籍問わず理解できる対応が必要と考えるがどうか。

■ 事務局

バスの利用も増えており、はりまや橋観光バスターミナルでは、主に客船からのシャトルバスの乗降、また定期バスも降車だけはできる。例えばバスで高知へツアーで来て、バスをホテル等に駐車できない場合に、泊車が可能であり、このような形で利用していただいている。

また、先ほど安全面での指摘について、ターミナル降車場所の構造上、慌てて横断歩道の

方に行こうとすると、バスが来る車道に出てしまうため、現状警備員を配置しているが、大勢の移動がある状況では、定期的に注意等を行うことは発生すると考えられ、現在のほりまや橋観光バスターミナルを運営している指定管理者が、バス会社の系列でもあるため、十分周知して、安全に利用していただくようにしていきたい。

■ 委員

警備員を置くだけでなく、ぜひ外国語数カ国分で案内をすとか、あとは文字だけでなく、誰が見てもわかる図に示して案内する等、そういった整備をお願いしたい。

■ 委員

実体験として、外国人観光客にバスターミナルの場所等をよく聞かれることがある。配布する地図等にルートの色分け表示や多言語対応等すると、より分かりやすく示すと分かりやすくなると考える。

■ 事務局

各言語に対応したWEB版の地図等については、作成をしている。

しかし、大人数が一度に動くため、それが全ての外国人観光客に各言語に対応した地図等が行きわたるような、PRが十分に追いついておらず、情報を持たないまま市街地に到着しているといった状況を想像するところだが、その部分については、少しでも改善できるように取り組んでいく。

■ 委員

バスターミナルに関連しまして、収支が赤字だった理由も一緒に伺う。

■ 事務局

収支の部分については、支出の中で人件費の高騰により、当初公募時から200万円ほど上昇している部分があり、これが一因と考える。

■ 委員

多言語対応済みの地図をWEBに掲載しているとのことだが、外国人の方が外国版のWEB上で検索しても、当該サイトにたどり着ける仕組みとなっているか。

■ 事務局

確認の上、その辺りの工夫ができるかどうか検討する。

■ 委員

多言語対応したWEB版資料に関連して、寄港の際に市街地に立ち寄る観光客に伝わっていないとのことだが、一方で船が寄港する日は、事前に判明しているので事前に船会社、運航会社なりへ、メール等で資料を送信する等の対応が実は肝要であると考え。媒体があるのに観光客に届いていないのはもったいない。今までの取組と合わせて試験的に実施してはど

うか。

■ 事務局

下船後のツアー等々をつかさどるオペレーターがおり、県の国際観光課と調整をしているため、各種情報の事前周知についても今後実施したいと考える。

■ 委員

「高知市龍馬の生まれたまち記念館」について、財政的にも安定している大企業が、順調に運営しており、事業実績もよく評価も高いが、指定管理者が高知や坂本龍馬について十分に理解していないのではないかと。財政的に堅実な団体が管理することも大切であると考えますが、一方で高知や坂本龍馬に理解のある団体が管理すべきという考え方もあると思うがどうか。

■ 事務局

「高知市龍馬の生まれたまち記念館」は今回から、指定管理者がエンターテインメント関連会社のシダックスとなった。

前指定管理者からシダックスへの移行の際、一部の学芸員等については、前回の指定管理者から引き続き雇用をさせていただいており、従前の指定管理者の知見は継承されているため、龍馬関連のつながりを生かした取組も継続して実施していることを確認している。県外の大手企業であることだけでなく、龍馬あるいは高知を愛してくださる観光客の皆様に満足していただける等、そこは十分注意して運営している。

■ 委員

はりまや橋観光バスターミナルについて、設置目的のところに中心市街地の活性化に資するためという文言があり、今コロナ明けで、徐々に県外や、外国の観光客が来ているなら、バスを降りた後で中心市街地の観光地である日曜市等へ観光客がスムーズに行ける案内ができる仕組みとなっているのか、またバスの発着場所として、まさに市街地にある藤並公園等をバスの発着場所にするといった構想があるか。

■ 事務局

はりまや橋観光バスターミナルの設置目的は、中心市街地における道路交通の円滑化と、観光客の利便性を確保することであり、日曜市等へ観光客を運ぶ動線になり得るものと認識している。

ただ、現状では、ツアーバスはほとんど高知城公園の駐車場の方に停まる状況である。

はりまや橋観光バスターミナルの利用については、主に観光地で客を降ろした後、バスの待機場所がない場合や宿泊するホテルや旅館にバスが停められない場合に利用していただくことがメインの運用となっている。

しかし、客船から市外へのシャトルバスの降車場所としても、利用しているため、降車後、商店街を東から西へと通り散策しつつ、高知城、あるいはひろめ市場へと行っていただきたいという考えから、はりまや橋観光バスターミナルを中心市街地の活性化にも資すると考えている。

審議内容

(1) 令和5年度事務事業評価（一次評価結果）について

後日回答事項①（会議録p3）

（質問）

現在、県内に在住しているよさこい移住者の人数を把握しているか。

（回答）

令和5年10月末現在 28名。

よさこい移住者数の把握については、令和5年度から開始したところで、内訳は、申出を頂いた方に記念品を贈呈することで把握した移住者が15名、よさこい移住応援隊として任命している移住者13名の計28名であり、令和5年度以降に移住した方をのみを対象としていない。

後日回答事項②（会議録p5）

（質問）

資料1 416 ページ橋梁の震災対策事業について、震災後に、橋の橋げたと橋脚がずれ、緊急車両が橋を渡れないという状況が生じたときに、橋の機能を速やかに回復できるようにする工事を実施するとのことだが、工事の対象となる橋梁について本数的には、どの程度であるか。

（回答）

橋の機能を速やかに回復できる耐震対策については、「緊急輸送道路」のみでなく、災害時、重要な路線となる、「道路啓開ルート」や「物資配送ルート」等の重要な路線上に存在する橋梁について、対策の必要性を検討し、対象橋梁を22橋選定した。

事業期間は10年間で、総事業費は約39億円を予定しており、令和6年度から順次、対策を実施していく。